

文部科学省

総合職

令和7年度
内定者の声



文部科学省



内 定 者 一 同 ご 挨 拶

こんにちは。この度は『令和7年度版 文部科学省総合職内定者の声』を
ご覧いただき、ありがとうございます。

この冊子は、文部科学省に興味を持ってくださった方に、様々な情報をお届けしたい
という思いのもと、令和7年度の総合職内定者全員で制作しました。

「人と知を育み、次世代の子供に向けて、豊かな未来を紡ぐ」。文部科学省が掲げる
このミッションに、私たちひとりひとは共感し、自らの思いを重ね、文部科学省で
働く道を選びました。その過程で何を考えて、どう悩んで、どのような思いで決断をし
てきたのか。それぞれの文部科学省につながる軌跡を描きました。

文部科学省に興味を持ってくださったあなたにとって、
この冊子が進路選択につながる何かをつかむきっかけとなれば幸いです。
あなたの夢や目標に向かっての第一歩を、内定者一同心の底より応援しています。

令和7年度
文部科学省総合職内定者一同



CONTENTS

01 内定者統計	----p.4-p.6
02 総合職試験情報	----p.7-p.16
03 官庁訪問体験記	----p.17-p.29
04 就職活動体験記	----p.30-p.36
05 文部科学省に決めた理由	----p.37-p.39
06 インタビュー	----p.40-p.50
• 地方大学出身 • 学部卒（技術系） • 院卒（事務系） • 博士課程 • 早期入省 • 文化庁&スポーツ庁志望者	
07 内定者プロフィール	----p.51-p.70

01 内定者統計

|
02 総合職試験情報

|
03 官庁訪問体験記

|
04 就職活動体験記

|
05 文部科学省に決めた理由

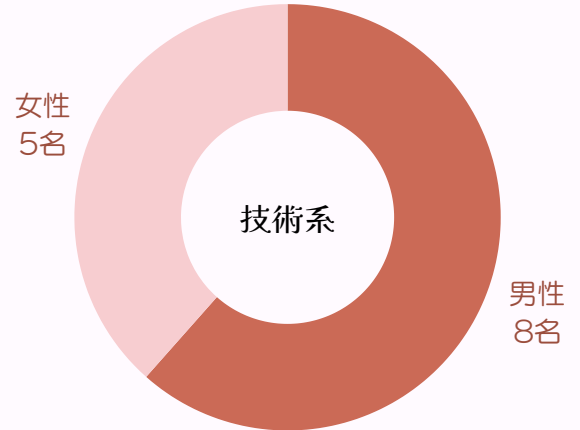
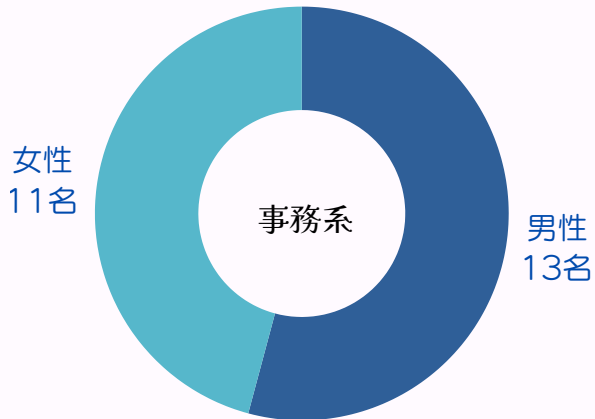
|
06 インタビュー

|
07 内定者プロフィール

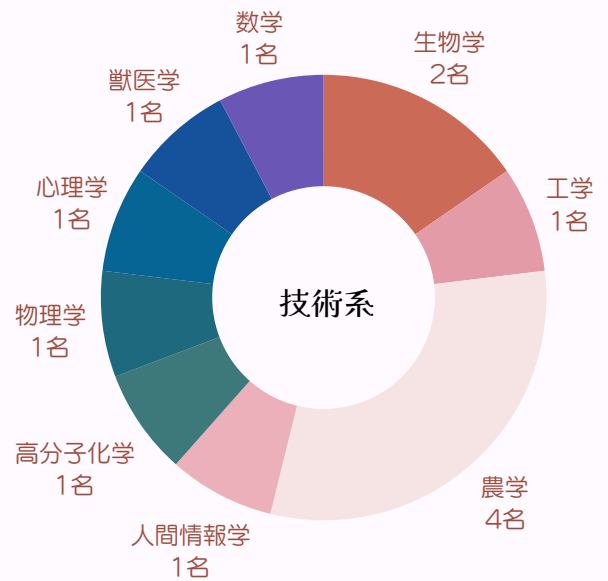
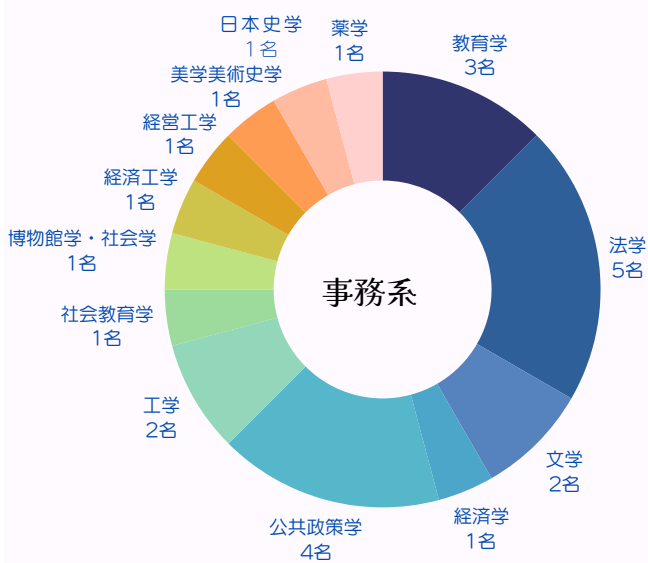
内定者の属性

計37名（事務系24名（うち施設系2名）+ 技術系13名）

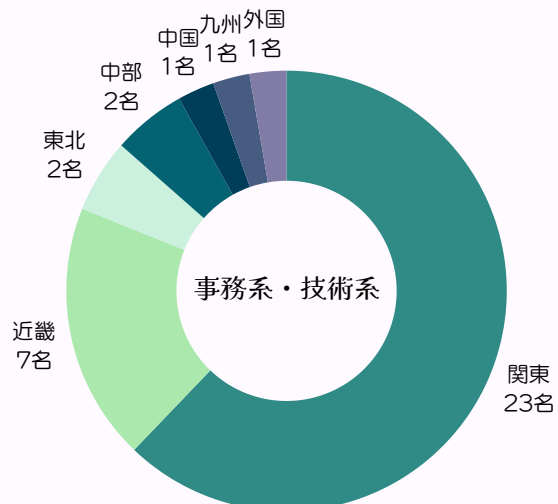
男女比



専攻



出身大学所在地



内定者の属性

計37名（事務系24名（うち施設系2名）+ 技術系13名）

最終学歴

【事務系】

学士 ... 15名
修士 ... 9名
博士 ... 0名

【技術系】

学士 ... 1名
修士 ... 7名
博士 ... 5名

留学経験



事務系 10名

イギリス（2名）
カナダ（3名）
オーストリア
オーストラリア
ドイツ（3名）
ベトナム

技術系 6名

アメリカ
イギリス（2名）
フィリピン
ロシア
ニュージーランド

取得国家資格

教員免許	4名
司書資格	1名
学芸員資格	1名
基本情報技術者	3名
応用情報技術者	1名
獣医師免許	1名
知的財産管理技能士	1名
第1種放射線取扱主任者	1名
甲種危険物取扱者	1名

01 内定者統計

|

02

総合職試験情報

|

03 官庁訪問体験記

|

04 就職活動体験記

|

05 文部科学省に決めた理由

|

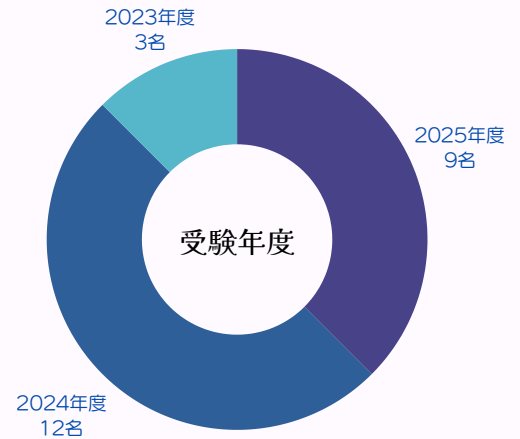
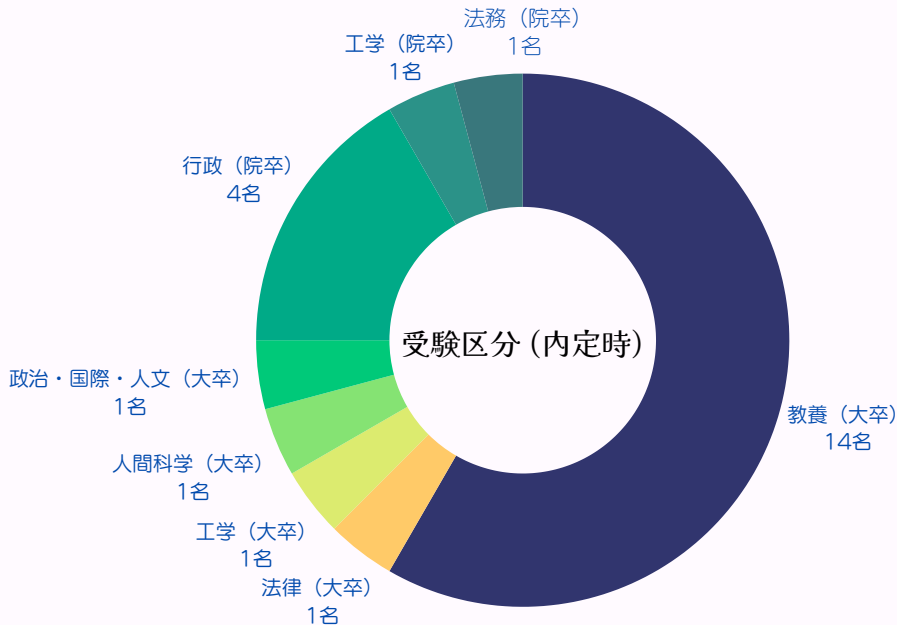
06 インタビュー

|

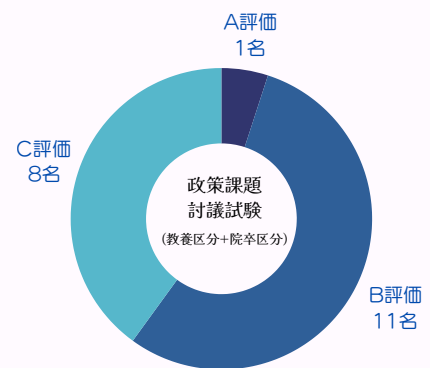
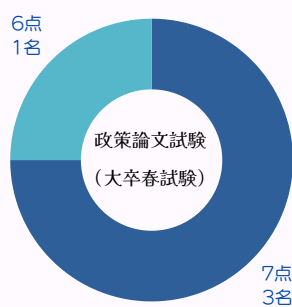
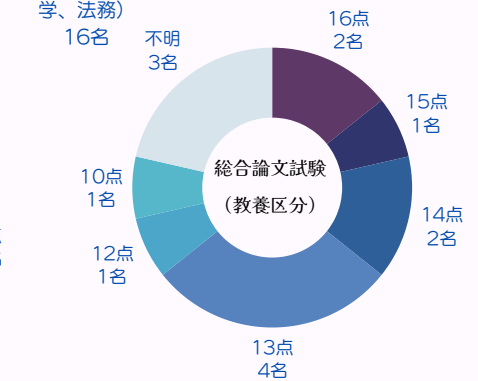
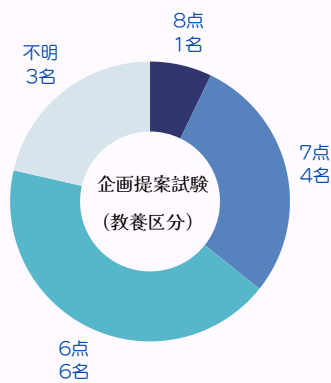
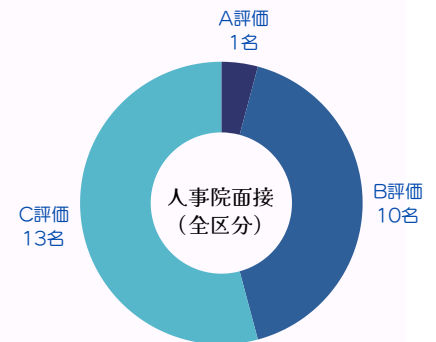
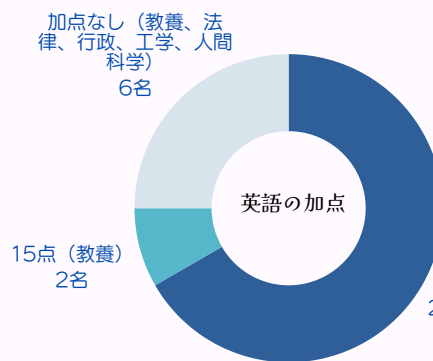
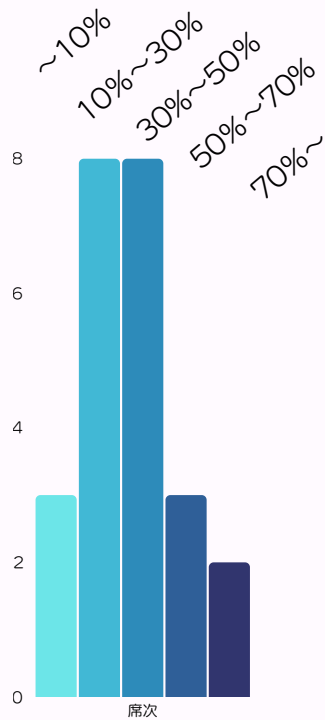
07 内定者プロフィール

事務系内定者：24名
(うち施設系2名)

試験概要

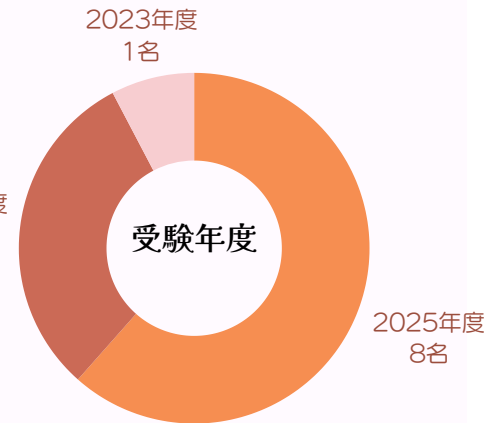
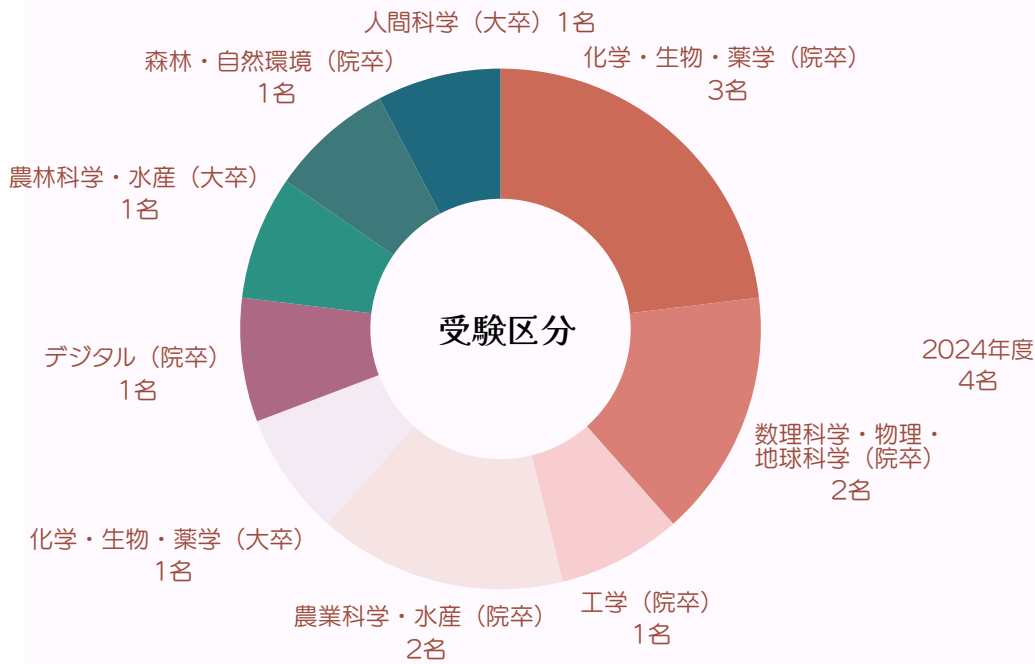


試験結果

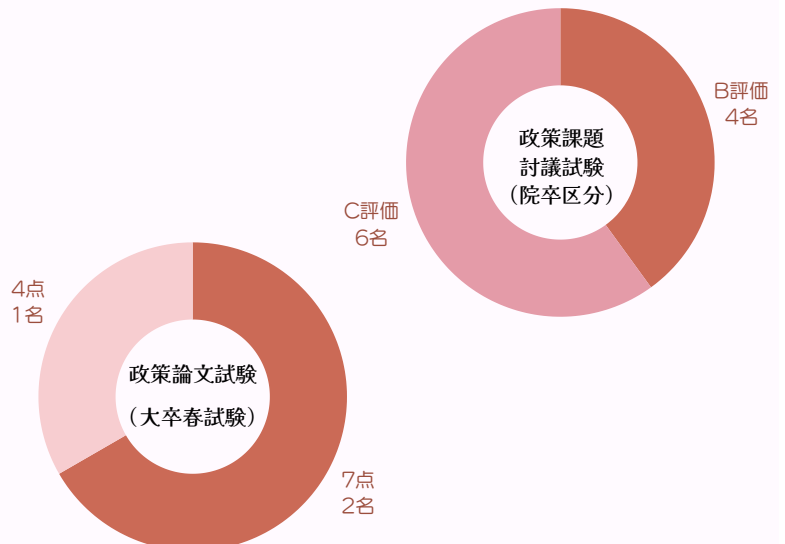
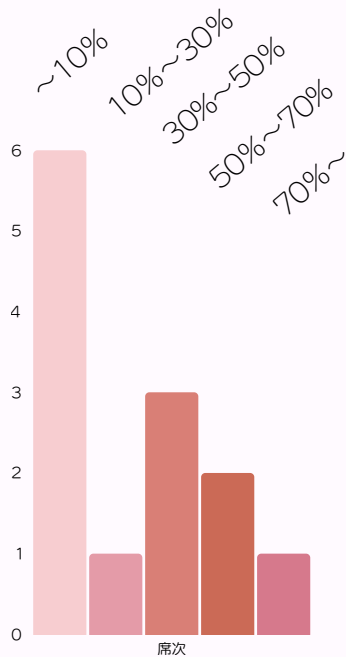
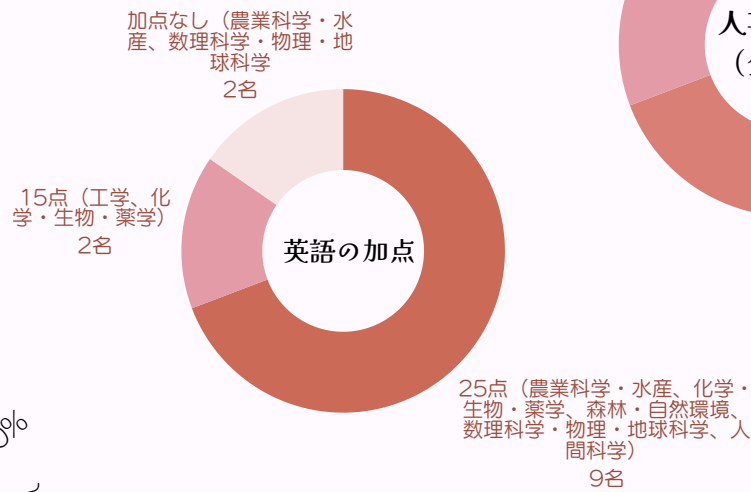
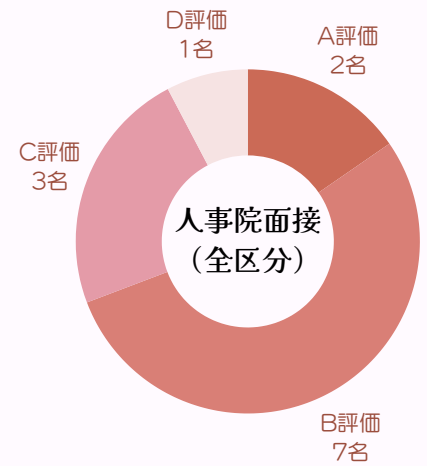


技術系内定者：13名

試験概要

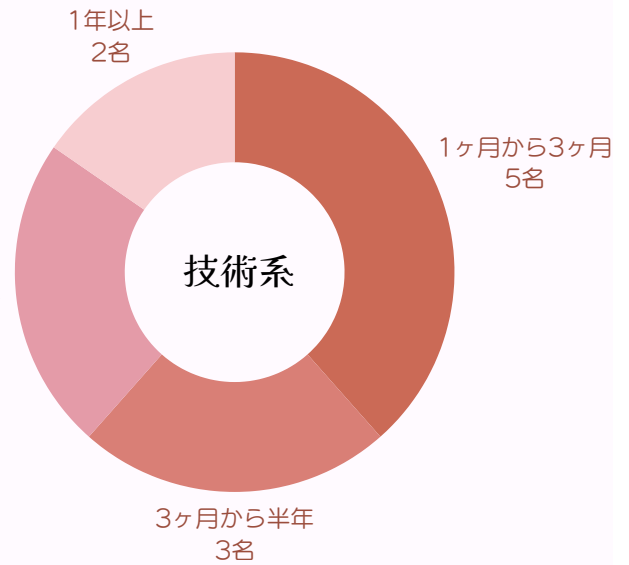
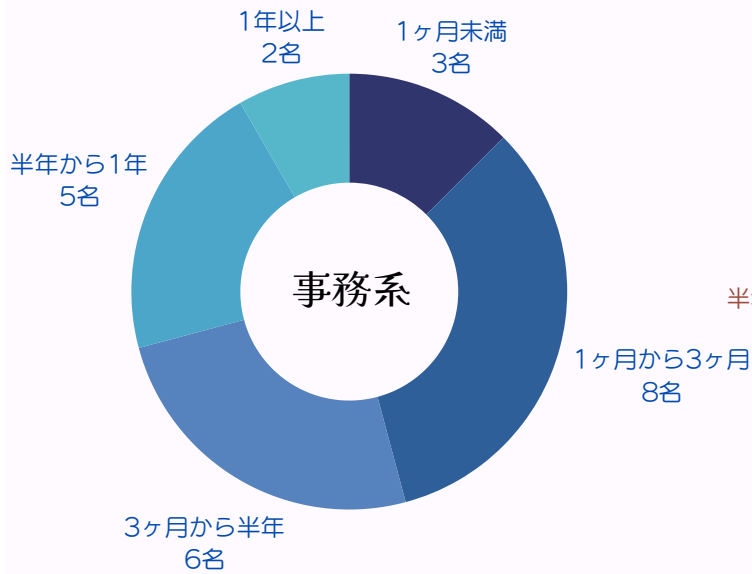


試験結果

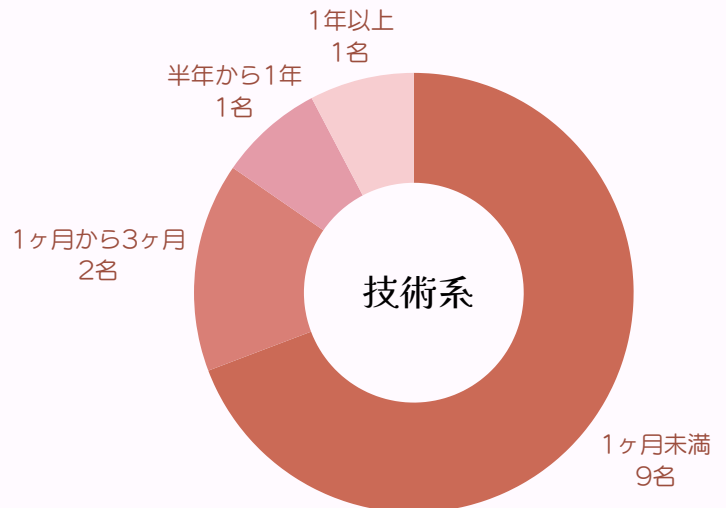
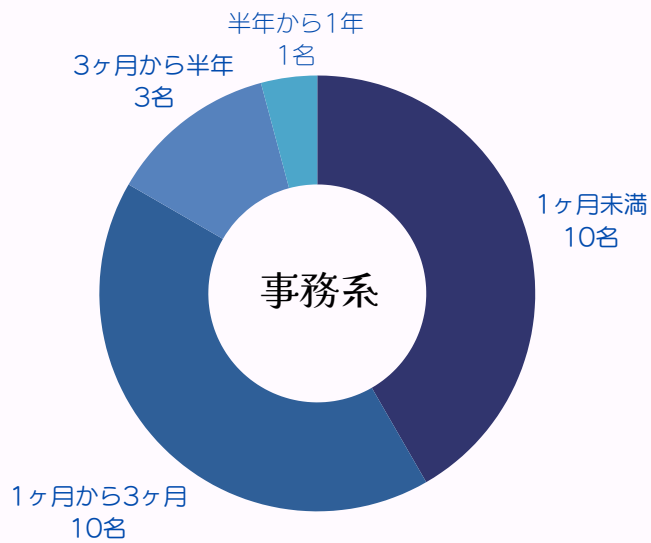


勉強期間（一次試験）

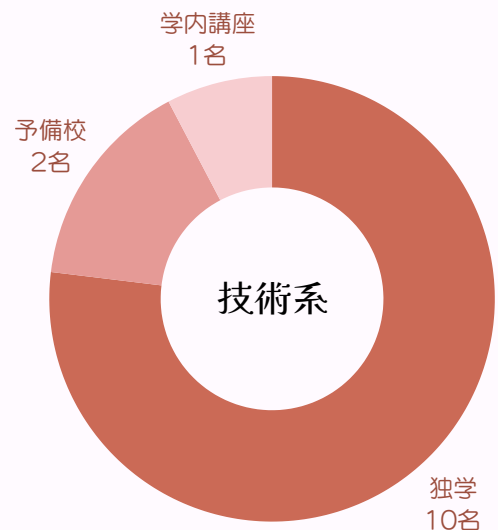
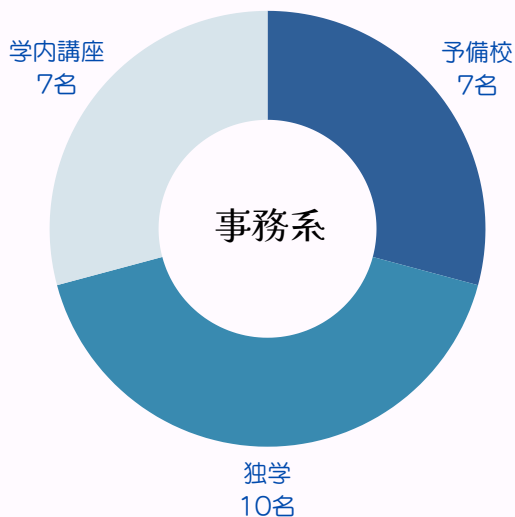
内定者 計37名
(事務系24名 (うち施設系2名) + 技術系13名)



勉強期間（二次試験）



勉強方法



《受験区分の選択理由》

- 教養区分以外全般：自分の専攻と被っていたから。
- 行政区分：合格基準が比較的低位のため、大学院の研究とも両立しやすそうだった。一番関心の高い行政分野で勝負でき、大学院での学びも反映しやすい試験内容だった。
- 教養区分：民間企業も志望していたので、早期に合格が決まり、民間就活と両立しやすい教養区分を選択した。
- 法律区分：国家公務員総合職試験の合格率が一番高かったから。
- 工学区分：府省等別採用予定数を確認して志望省庁の採用枠が多かったから。

《大学の講義、研究、サークル活動、アルバイトとの両立》

- 7月までは大学やサークル、アルバイトを普通に続けていた。試験対策を本格的に始めた8月には省庁のインターン以外の予定をあまり入れないようにして、9月にはなるべく勉強に集中した。
- 研究や講義の無い3月の1～2週間を活用した。
- 社会人だったので勤務終わりに勉強していた。
- 研究の待ち時間に教科書を読み込むなどして両立した。
- 平日の日中は大学の講義や研究を優先し、土日や夜に勉強するようにした。講義や研究、アルバイトの話が官庁訪問時の話題のネタになったのでしっかりと取り組むべき。

《使用した参考書》

- 過去問（『過去問500』や『新スーパー過去問ゼミ』、人事院に請求した過去問など）
- 予備校や学内講座のテキストや問題集（『TACシリーズ』など）
- 市販の教科書や問題集（『畑中敦子の数的推理・判断推理』や有斐閣の参考書、時事対策本など）
- 学部の講義ノート
- 大学入試で使った教科書や問題集
- SPI対策の問題集



コラム それぞれの試験区分

国家総合職試験の大卒程度試験には、大きく分けて教養区分と専門区分があります。

教養区分：春と秋に試験が行われています。秋試験は、試験時期が早く官庁訪問対策に時間を割きやすいこと、民間就活との両立がしやすいことなどから人気です。また、この春から春試験でも教養区分を受験できるようになったため、更なる受験者の増加も予想されます。

専門区分：春に試験が行われています。自分の専攻分野に近い区分を選んで受験できるため、大学の勉強が活かせるというメリットがあります。省庁によって各区分からの採用人数の傾向が異なる場合もあるので、事前にHPなどで確認しておきましょう。

自分の状況や進路希望に合わせて試験区分を選択しましょう！



基礎能力・専門試験のポイント

筆記試験対策（基礎能力・専門択一・記述）

- ・「合格＝官庁訪問に進むスタート地点」となるため、満点を取る必要はない試験と考えていた。過去問から確実に得点源になる分野のみを抽出して対策することで、短期間でコスパ良く合格することも1つの戦略だと思う。
- ・基礎能力は早めに過去問を解いて自分がどこができないのか判断することだと思う。記述は内容それ自体もだが、「きちんと伝えることが意識されているか」を重視すると良いと思う。政策立案のために「色々な立場の人と対話して理解をしていただく仕事」が多いと認識して記述の練習をした。
- ・数的処理の勉強を第一に行うべき。解き方のパターンを身につけないと苦戦する一方で、ある程度慣れると安定して点数が取れるようになる。また、英語や日本語の読解力が衰えている人は、文章読解の過去問や大学入試の過去問を解くことをお勧めする。
- ・時間を計測しながら問題を解くことで、ある種の緊張感を持ちながら勉強することができた。解いた問題の見直しは手短に行い、回転数を上げた。
- ・ニュース、新聞など情報収集に余念がないようにしていた。志望者と時事について話す機会もあったので、お互いに気になるトピックを持ち寄っていた。
- ・工学に限るかもしれないが、配点比率が重い専門択一は135題の中から20題を選ぶので、問題用紙をパラパラしていると専門外でも解ける簡単な問題が案外たくさん転がっていた。
- ・一貫性と同時に、広い視点をもって考える癖をつけることが重要だと思う。
- ・基礎能力は最低限とらなければいけない点数を取るために、分野を絞って勉強し、専門択一はいろいろな参考書を使うよりも1冊の参考書を完璧に暗記するくらい何周も回すのがおすすめ。記述は慣れの部分が大きいので、過去問を使って何度か書いてみるといいと思う。
- ・自分の専門や得意、好きな分野を中心に「必要数＋1分野」勉強しておくとういと思う。

試験当日について

《試験当日のエピソード》

- ・二次試験の専門記述の「憲法」で予想していなかった範囲からの出題があり、本番で急遽「公共政策」にシフトした。全く対策していない科目だったが、論理的矛盾のない“それっぽい”答案を意識した。
- ・ご飯の後に基礎Ⅰだったが、食べ過ぎて英語の長文を読みながらうとうとしてしまった。ご飯の量を控えめにしておいて前日はしっかり寝ることが大切。
- ・筆箱の中にあるシャーペンの芯の残りが少なくて当日焦った。事前に持ち物をしっかり確認しておくこと。

《その他アドバイス》

- ・二次試験は専門分野だけにこだわらず、とにかく少しでも高得点を取れそうな問題を選ぶようにした。
- ・休憩時間に間食を取ったり複数の分野の参考書に目を通すと安心感を得られる。
- ・政策論文の試験は終わった人から退出できる。休憩時間が多いことに越したことはないの、周りが終わっていなくとも自分のタイミングで退出してよいと思う。
- ・一次試験は服装自由。スーツを着て来ている人もいたが、長時間の試験をスーツで受験するのは大変なので過ごしやすい服装で行って良いと思う。
- ・一次試験の時期はまだ寒いことがあるので、会場の気温に合わせて温度調節しやすい服装にすることが大事。



教養・院卒区分のポイント

政策課題討議試験対策

《事前準備》

- 実際に友人などと討議の練習をすることが第一です。公務員を目指すコミュニティなどに所属していれば、行いやすいかと思います。また、私のように集団の中で意見を主張することが苦手な方は、周りの人の意見をサポートするような発言を心がけると議論をスムーズに進めることができると思います。
- 一度受験者で集まって当日と同じ形式で練習しました。形式を事前に知っておく（経験者や予備校勢から話を聞いておく）と当日比較的焦らずに済むかと思います。
- （私は経験がないのですが、）場数を重ねて慣れておくという意味では、民間企業等のグルディス形式の選考を受けておくとも良いかもしれません。
- 自分が聴覚情報の処理が得意かどうかだけ把握しておくことをお勧めします。自分は非常に苦手だったので、メモに7、議論を追うために思考するのに3くらいの配分で討議中の脳のリソースを割いていました。
- レジュメの構成を予め決めておく。20分間でまとめる練習を重ねておく。時事ニュースをよくチェックし、自分の考えを持つように癖づけておくとも良いと思います。行政として何ができるかという点も意識しておくのも大事だと思います。
- レジュメの書き方くらいは作戦を立てておく。

《討議のポイント》

- 「討議の時間内に結論が出なくてもよい」「役職を決めなくてもよい」という注意事項があるため、国家公務員としてどのようなことができるのか、多角的な視点から可能性を話し合うことを意識した。
- 個々の受験者が話す内容をよく聞いておき、自分が発言するときは、他の受験者の発言内容に付け加えて話す、あるいは意見を修正するなど討議であることの有意性を意識して臨む。
- 特筆するほどの対策は行わなかったが、自分の考えを主張し続けるのではなく、場の雰囲気に合わせて議論を円滑に進められるような立ち回りを心掛けた。
- 参加者がそれぞれ話せているかに目を配る。議論が堂々巡りしているなと思ったら先に進めようというポーズをなんとか作る。
- 対話を意識する。





教養・院卒区分のポイント

企画提案試験対策

《事前準備》

- 事前に公開された資料から3つくらいの案を考えておき、本番の問題文に応じてどれを書くか決めることにしていた。事前に考えた案については想定質問も作っておき、特に人材と予算の規模やどこからそれを調達するかについては答えられるようにしていた。
- 事前に発表される資料から問題を予想して、プレゼンシート作成・模擬プレゼンをやってみる。
- テーマの範囲であまり取捨選択をせず準備すること。準備する方向性が外れると大損です。
- 受験者同士でコメントや質疑応答をし合い、筋の通った提案ができるように対策しました。
- 同じ試験を受ける予定の友達と一緒に対策をするのが良いと思います。無料で誰でも参加できる対策会を企画している団体もあるので、早めに調べるのがいいと思います。
- 配布された白書や現行の政策、関係書籍を読み込んだ。政策案は細部まで詰めるのではなく、ざっくりとしたテーマをいくつか決めておいて、当日の出題に対応しやすいようにした。

《レジュメの書き方やプレゼンのコツ》

- 論理構造が分かりやすいように、箇条書きや章立てを行う。
- レジュメはなるべくシンプルに要点をわかりやすく書き、細かな説明は口頭で補足すると良いと思います。
- 大筋⇒個々の政策案⇒まとめ・考慮事項の順で書く。
- 緊張すると目線が下がったり、声が小さくなったりして自信なさげになると指摘されたので、いつも意識して練習していました。
- 自分の主張を裏付ける論拠を用意し、説得力を持たせること。自分の考えを素直に、わかりやすく伝えること。文章だけでなく図も使って見やすくまとめる努力をしました。
- プレゼンは時間が短いので、レジュメの内容すべてを言うことにこだわらないことが肝要です！私は焦って時間を超過してしまいました。



論文試験・人事院面接のポイント



政策論文・総合論文試験対策

- 最初はとりあえず形式に則って何度か書いてみるのが大事だと思う。ある程度慣れてきたら、時事の知識をつけたり、「この分野の問題にはこういう意見や施策案を述べよう」ということを決めたりして、充実した解答が書けるようにするのがおすすめ。知識量よりも、論理的に自分の考えを述べるのが大切な気がする。
- 想定されるテーマを絞ることは難しいと思うので、論理的で説得的な文章を書き上げる力を養っておくといいと思います。幅広い分野のニュースにアンテナを張っておく、志望者同士で見せ合ってコメントしてみる、トピックについて会話する、といった日頃からの準備が大切だと思います。
- 時事問題はある程度知っておくとよいです。(自分是对策をしなかったのであまりアドバイスできないです...)
- 参考書の書き方を参考に過去問で論文を書いてみて、誰かに添削してもらう。
- 市販の論文対策の参考書を買って頻出の話題に対して論点を確認したり、文章構成の型を身につけました。試験時間がすごく長いのであまり本番同様の対策をする機会がありませんでしたが、当日の時間配分で戸惑ったので、時間を測って過去問を解くなどすべきだったと思っています。
- 細部にこだわるよりも、全体の流れを意識すること。

人事院面接対策

《面接カード》

- 他人の目を通す。キャリアセンター、予備校、学内講座、友人、親など、別々の視点があって、自己分析に磨きもかかる。
- 自分が大学で取り組んできたことと国家総合職や文部科学省職員として求められる力を結びつけてアピールするようにしました。
- 「書きたいことがあるのに字数が足りなくなりがち」という話をよく耳にしていました。実際に書いてみて、何度も表現を変えて友人や先輩に見ていただいたことを覚えています。“書かなくても伝わる”と思い込んでいることにどう気づけるかがポイントだと思います。恥ずかしがらずに他人に読んでもらうことをお勧めします。

《面接練習》

- 「なぜ民間ではなく国なのか」というテーマは聞かれる可能性が高いので、自分の言葉で語れるようにしておくと思得力が出ると思う。
- 回答は端的に、2文くらいで収めるようにしていた。面接官とのコミュニケーションを意識して、相手の質問に正面から答えることを心がけた。
- 笑顔、早口にならないようにしていました。
- 昨今の就活で対面面接はむしろ少ないと思うので、服装や荷物、入室から退室までの動きをすべてシミュレーションしておいた方がよい。
- 結論を先に言うことを常に意識し、話し過ぎないようにしていました。何度も模擬面接をして、面接自体に慣れるのが大切だと思います。
- 面接カードに書ききれなかった自分の経歴も振り返ってリスト化しておく、とっさにエピソードを引き出しやすいと思います。



人事院面接当日のポイント

人事院面接対策当日のエピソード

《当日の流れ・受け答え・思い出》

- 聞かれたことには答えるが、聞かれたこと以上は話さないのが無難だと思いました。面接時間も短いので、民間ほど多くを語らずとも面接官が気になるところは突っ込んでくれます。
- 個人の業績よりも、協調性を問われていると感じました。ほぼ個人作業のゼミについて触れた部分を「ゼミのメンバーと意見が食い違ったことはあるか」「どのように解決したか」と（個人作業だと主張してもなお）何度も聞かれてしまったので困りました。
- 1人の面接官が長々話していて他の面接官がイライラしていました。質問項目を分担していたようで、志望動機については時間がなく質問されませんでした。
- 学部時代のエピソードを忘れかけてしまっていました。学部から院までの出来事を一通り振り返っておくと良いです。
- かなり緊張していましたが、面接の前の順番の人が「和やかな雰囲気でしたよ」と教えてくれたので安心して面接に望むことができました。
- 試験会場に向かうときや試験部屋の待機時間では、常に頭の中で面接のイメージを繰り返していました。何を聞かれても即答できるくらいにいろんな質問パターンの面接をシミュレーションしていました。
- 待ち時間がとても長かったです。この間に特にできることはないので、そういうものだと割り切ったほうがよいです。面接ではカードに記載していなかった趣味についての質問をされ、しかもかなり深いところまで掘り下げられて面食らいました。そういった質問に対応するためには心の余裕が必要だと思います。そのため事前に練習を重ね、カードの内容についての質問は完璧で、時間は想定外の質問に使えばよいという心構えになることが理想だと思います。

総合職試験にまつわるアドバイス

- 院卒は修了見込証明書が必要になります。はやめに用意しておきましょう。私は危うく忘れかけました。
- TOEICの成績はしっかり持っていきましょう。
- 私の周囲には総合職を第一志望として考えている人が少なかったため、学習のペースをつかんだり、情報収集をするのに苦労しました。自主的に計画を立てて進めてきたのが良かったと思います。
- 試験に関する情報は、実際に試験を受けた先輩など信頼できる筋から入手することをおすすめします！周りに同じ試験を受ける人が少ない場合は、省庁の試験対策イベントに参加したり、説明会で知り合った人と協力したりすると心強いかもしれません。
- 満点を目指す試験ではないので、どの分野で何点取るかの作戦を立てることがとても重要です。自分と問題の相性などもチェックしながら、効率の良い勉強ができることを祈っています、頑張ってください！
- 総合職や公務員志望でなくてもいいので、友人とともに勉強することでモチベーションを保つこと。
- 軽く風邪を引いた状態で二次試験に臨むことになったので、体調管理には気をつけてください。

01 内定者統計

|

02 総合職試験情報

|

03

官庁訪問体験記

|

04 就職活動体験記

|

05 文部科学省に決めた理由

|

06 インタビュー

|

07 内定者プロフィール

官庁訪問の概要

- ・ 国家総合職試験の最終合格後、志望府省庁等に採用されるための重要なステップ
→ 「試験最終合格＝内定」ではない
- ・ 2025年度は6月中旬から下旬の約2週間で行われた
- ・ 複数府省庁（基本上限3府省庁）に訪問可能
- ・ 職員と受験者の1対1の面接が基本
- ・ オンラインも人事院のルールに則り対応（2025年度）

※官庁訪問の最新情報については必ず人事院ホームページをご確認ください
※すべて2025年度の文部科学省官庁訪問の情報であり、毎年変わり得ます

【クール制】※全府省庁共通

第1クール・第2クール

- ・ 第1志望から第3志望までの府省庁を1日ずつ訪問可能。
- ・ 必ずしも3日間全て回らないといけないものではなく、訪問する府省庁は1つや2つでもOK。
- ・ 第1クール・第2クールでは訪問する順番を変えることはできず、また、同一クール内で複数回同一府省庁に訪問することもできません。

1日目	2日目	3日目
府省庁A	府省庁B	府省庁C

×2クール

第3クール

- ・ 第2クールが終わると訪問する順番がリセットされ、第1・第2クールで2日目以降に回った府省庁を第3クールで1日目に回することも可能です。

1日目	2日目
府省庁A	府省庁B

第4クール

- ・ 第3クールで訪問した府省庁に訪問するのが基本です。
- ・ 第4クールは1日のみです。
- ・ 第4クールを通過すれば内々定を獲得し、官庁訪問は終了となります。

1日目
府省庁A

【面接の種類】※全て2025年度の文部科学省官庁訪問の情報

入口面接

- ・ 5分～10分くらいの短い時間で職員さんと1日の流れを確認する面接。ある時もない時もある。

集団面接

- ・ 学生複数人（5人程度）×面接官複数人（3人程度）で行う。
- ・ 文部科学省の第1クール最初の面接は、事務系においては集団面接であることが多い。

原課面接

- ・ 職員の方に業務についてのお話を伺うことが多い。

人事面接

- ・ 人事担当の方に来訪者メモに沿って質問を受ける。民間の就職活動の面接に近いイメージ。
- ・ 原課面接のように、業務についてのお話を伺うこともある。

グループディスカッション

- ・ 学生4人程度が1グループになる。テーマを与えられ、制限時間内で議論して発表する。（訪問日によってはグループディスカッションがないこともあった。）

出口面接

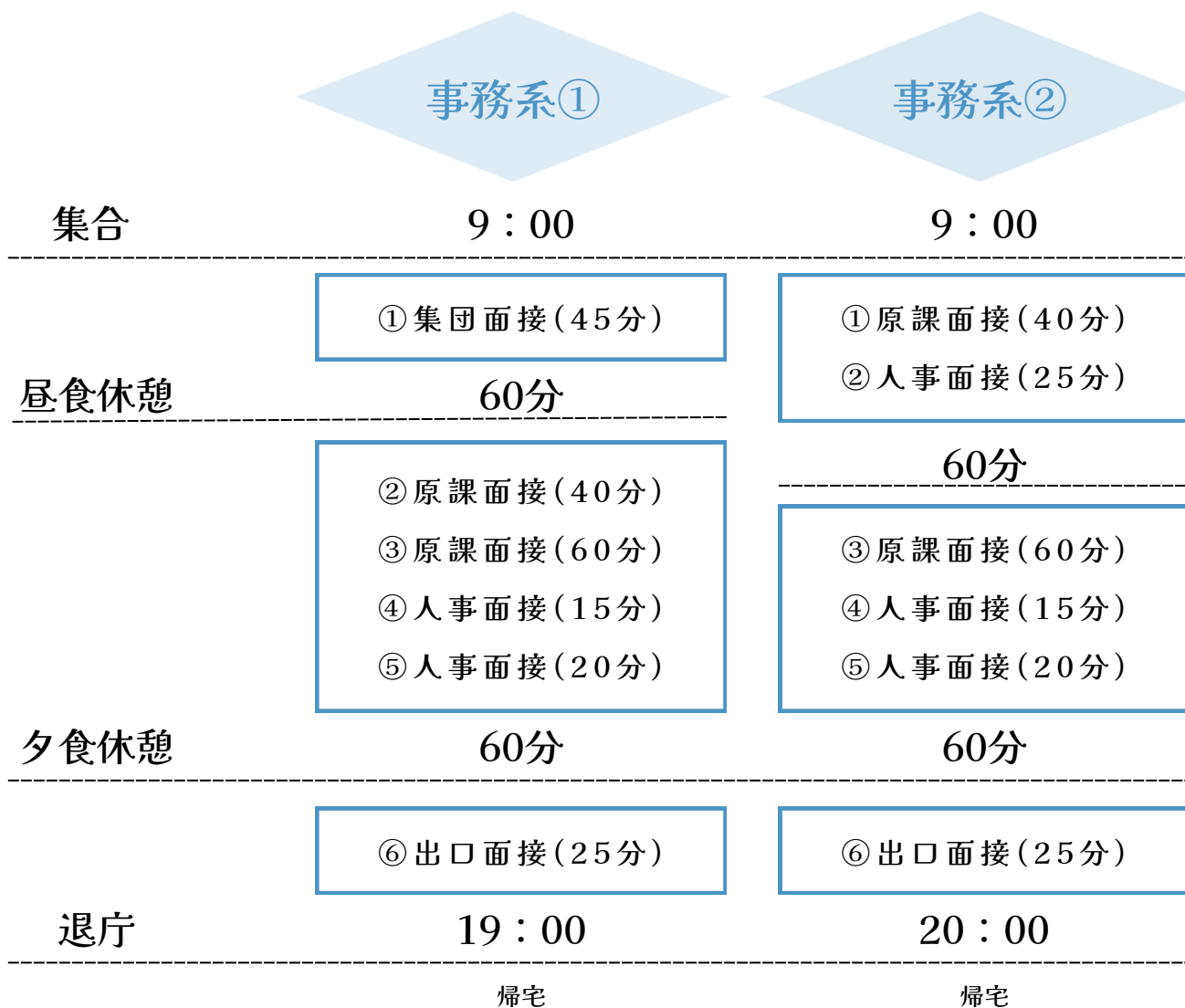
- ・ 1日の面接の評価が告げられる面接。志望度や他府省庁での選考状況を聞かれることもある。

官庁訪問のとある1日 事務系編

【1日のスケジュール】

気になる官庁訪問について、**事務系**内定者2名が実際に経験した官庁訪問期間中のとある1日を再現してみました。面接の種類については前のページをご覧ください！

※下のスケジュールは一例であり、面接の時間や回数は人によって異なります。



グループディスカッションの1日 事務系 ver.

9:00 集合・入口面接

↓ 部屋移動・くじ引きをしてグループに分かれる

↓ グループディスカッションの課題発表とその説明 (20~30分程度)

↓ グループディスカッション (60分程度)

↓ 各班発表 (3分 × 3、質疑応答含め15~20分程度)

昼休憩

午前中に詰まっていました…！
説明を聞く段階で内容を整理しながら
論点を考えるのが大変！

官庁訪問のとおる1日 技術系編

【1日のスケジュール】

気になる官庁訪問について、**技術系**内定者2名が実際に経験した官庁訪問期間中のとおる1日を再現してみました。面接の種類については2つ前のページをご覧ください！
※下のスケジュールは一例であり、面接の時間や回数は人によって異なります。

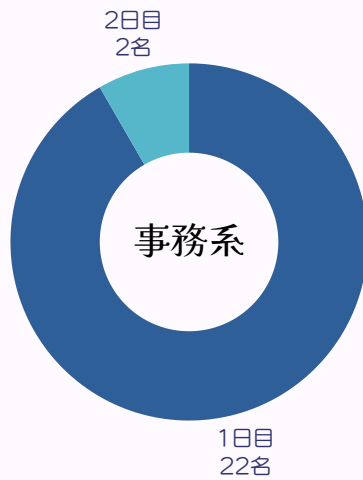
	技術系 通常期	技術系 既合格
集合	8:50	9:00
	① 原課面接(20分) ② 原課面接(30分)	① 原課面接(30分) ② 原課面接(25分)
昼食休憩	60分	60分
	③ 原課面接(50分) ④ 人事面接(20分) ⑤ 原課面接(30分)	③ 原課面接(25分) ④ 原課面接(30分) ⑤ 原課面接(35分) ⑥ 原課面接(30分)
	⑥ 出口面接(5分)	⑦ 出口面接(30分)
退庁	19:00	18:00
	帰宅	帰宅

グループディスカッションの1日 技術系 ver.

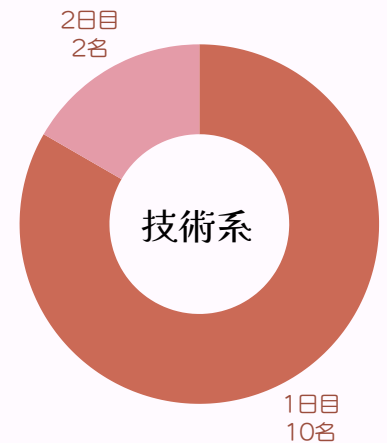
- 09:20 集合
原課面接① (3人一組のグループ面接)
原課面接② (3人一組のグループ面接)
- 11:45 グループディスカッションの班で自己紹介&チーム名決め
--- 昼休憩 ---
- 12:50 課題の説明 (20分)
グループディスカッション (90分)
討論会 (計3回、発表5分、質疑応答15分)
- 16:00~ 出口面接 (名簿順に呼ばれてそのまま解散、1人10分程度)

体力勝負でした...!
特に複数省庁を回る人は大変なので、
体調管理がとても大切!

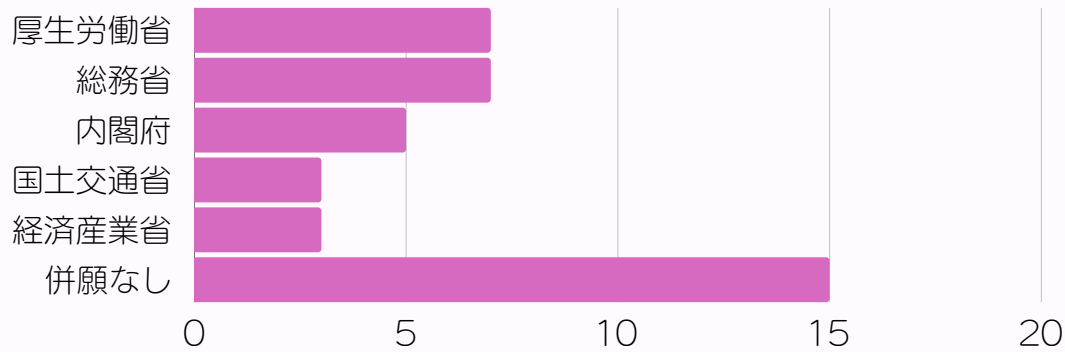
官庁訪問統計



文部科学省訪問日
(第1クール)



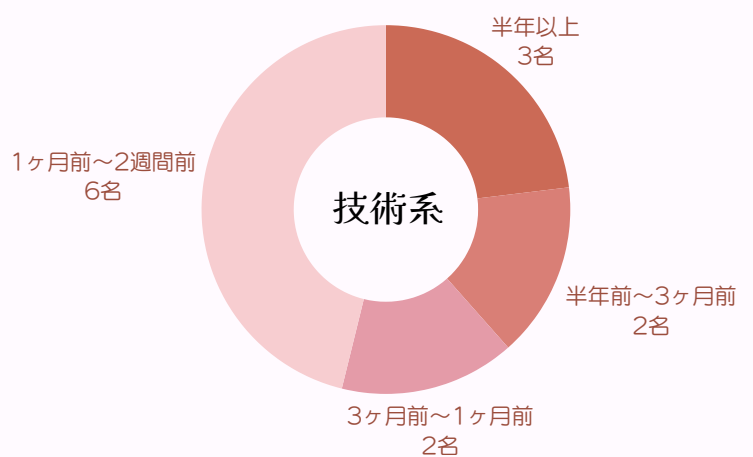
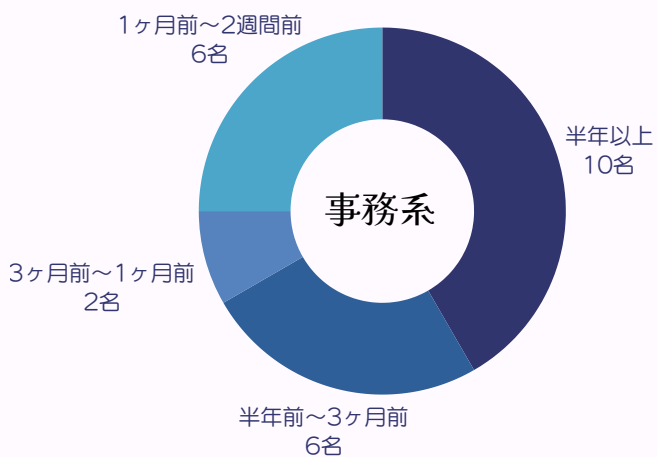
併願先府省庁（のべ人数）



その他の併願先：

農林水産省、環境省、警察庁、林野庁、こども家庭庁、
デジタル庁、原子力規制庁、人事院、会計検査院

官庁訪問の対策開始時期



官庁訪問体験談

1. 来訪者メモについて

「来訪者メモ」：官庁訪問へのエントリーの際に提出するエントリーシート。資格等の情報や志望動機だけでなく、政策提言があることが大きな特徴。面接官に共有される唯一の共通の資料。分量が多いため、官庁訪問準備のうちの大きなウェイトを占める。

①志望動機

- ・【内容】文教施設を学びのインフラとして再構築し、生涯にわたる学習文化を根付かせたい。【ポイント】日頃から思っていることを正直に書く。何度も深掘りされる質問であるため、本音じゃなければそのうち答えられなくなってしまうと思った。
- ・自分がどんな社会を理想としていて、その実現のために文科省で何をしたいかを書いた。自分の場合は教職課程を取ったことが志望理由の1つだったので、それも書いた。
- ・①文部科学省に興味を持った原体験、②それに関連して興味ある業務分野と文部科学省でやりたいこと、③②の内容がどのように文部科学省の理念、ひいては国益に繋がるのか、という感じで書いた。
- ・①こんな社会を作りたい→②そのためにすべきこと→③そこに志望省庁からどんなアプローチができるか？という順番で考えると、薄っぺらい内容になりにくくなると思う。
- ・字数が限られる中で、簡潔に自分の志望動機、どういう社会を実現したいか、どういう貢献ができると考えているか、を含ませることがポイント。本番の官庁訪問においても、志望動機欄は必ずと言っていいほど目を通していただく部分ですし、たかがESといって手は抜かない方がいいと思う。
- ・職員訪問のときなどに、志望動機について相談するのが良いと思う。

②政策提言

- ・【内容】ICT活用による健康被害改善のための屋外空間整備方針。例としてグリーンインフラを挙げ、①自然体験によるデジタルデトックスの機会 ②理科や生活科の体験学習との結び付け ③これを地域開放すれば学校が共育・共生社会の拠点にもなり得る。【ポイント】ありきたりな課題を設定したとしても、自分なりの切り口（自分なら建築計画）で糸口を模索すること。課題意識に対する自分の軸をひとつ持っている、官庁訪問中に他の問いを投げかけられても、筋の通った答えを考えられると思う。
- ・不登校児童対策として、①スクールソーシャルワーカーの増員、②学校外での学びの選択肢の充実 書き方のポイント：数ある政策手段の中からなぜこの政策をやるべきなのかを明確にする。
- ・特別支援教育の充実を課題として挙げ、さらに詳しい内容として通級指導体制の整備について書いた。現状認識、原因分析、課題、対応策が要素として含まれるように気を付けた。
- ・内容：不登校対策にコミュニティスクールを活用する。具体的には地域との交流や不登校生徒の居場所づくり、社会教育施設の活用などが考えられる。ポイント：なるべく具体的に書くべき。特に、誰がその政策を行うかを無視すると分かりにくくなる。また、既存の政策と被っていないかをよく調べましょう（既存の政策のアップデートなどならば問題ないと思います）。自分の興味や経験などをもとにしたオリジナリティある政策のほうが、面接でもうまく話せる。
- ・分断のない社会の実現のためのインクルーシブ教育の実現とその具体的な方策。来訪者メモで全てを伝える必要はない。逆に言えば来訪者メモ以上にたくさん考える必要があるかも。あくまで議論のスタートラインなので、間違いを恐れずに、職員の方々のダメ出しを受けて政策を成長させるんだぐらいの心持ちがいいかも。
- ・自分のビジョンと日本社会の現状を照らし合わせて課題を明確にした上で、その解決策を提示する。この解決策は既存政策で構わないが、現状何が足りていないかを考える。

③アドバイス

- ・各項目が長いので一文を短く。読みやすく。
- ・省庁ごとにファイルの形式や求められる内容が違うので、複数の省庁を訪問する場合は早めに取り掛かるべき。
- ・自分だけでは見えてこないもの、勝手に伝わるだろうと思っていることが多くあるので恥ずかしがらず、友人や職員の方に見ていただいて感想をもらうことをオススメする。そこで質問を受けたこと、アドバイスをもらったことがそのまま本番に生きてくることがあったので、面倒がらずにトライしてみたい。
- ・本番は自分が作ったメモを印刷して持って行った方がいい。何を書いていたか忘れてしまった。
- ・一本の自分軸さえ通っていれば、想いや考えを自由に書いた方が職員さんとの話のタネになるので、あまり気負わずに取り組んだ方がいいと思う。
- ・来訪者メモを完璧に仕上げるよりも、内容をきちんと自分で話す練習に時間を割くことをおすすめします！
- ・量が多いので大変ですが、きっとみんな苦戦しているのでめげずに頑張ってください！

官庁訪問体験談

2. 面接の様子

①面接の準備

- どれだけ対策してもきっと想定していない質問も飛んでくるだろうと割り切ること。(それでも対策はしたつもりでしたが、本当に想定外の質問をされました。)
- 事前の職員訪問も含めて、職員の方を見て、1つ1つの面接で反省と実践を繰り返すことです。はじめて聞いた話は後で調べたり、よくなかった部分を改善するのもそうですが、一番は職員の方の言葉遣いや視点など頭の使い方をよく観察して、模倣することで、少しでも自分のモノにすることだと思います。
- これまでの業務説明会や政策ワークショップの資料・メモや職員訪問時のメモを見返して、これまでどのような学びを吸収し、それによってどのように成長できたのかを整理しておくこと。(印象的だった説明会やイベントなどもすぐに答えられると良い) 逆質問の時間を与えてくださった場合に備えて、いくつか聞いておきたい質問を用意しておくこと
- 志望動機、政策提言を1分程度で言う練習をする。
- 予定が合う説明会には全て参加するくらいの勢いで説明会に参加し、情報収集すると良いと思う。積極的に質問をし、顔を覚えてもらうのも重要かも。また、職員訪問の形式はほとんど官庁訪問と同じであり、官庁訪問前に非常に良い練習になるので複数回参加するとよい。
- 来訪者メモの内容を自分の中で消化し切って自分の言葉で話せるようにする！
- 身だしなみ。
- 民間企業の面接を受けていたので、その経験は活かせたかと思います。自分の政策提言の内容について説明できることはもちろんですが、職員の方への質問をたくさん用意しておくとも良いと思います。

②面接当日のエピソード

- 省全体で取り組んでいる政策についても、職員のなかで意見が大きく分かれていることを知り驚きました。
- 宇宙関連の部署に原課訪問した際、自分がこれまでに全く知らなかった分野の話が聞けて面白かった。
- 1つのテーマ(官僚と政治の関わり)について、2人の面接官の方と話した後、出口面接で職員の方からも熱く語ってもらえたこと。職員の方が熱意と誇りを持って働いてるんだと感じた。
- 自分でも解決策が思いつかない課題について、面接官の方が一緒に悩んでくださいました。完璧な回答を即答できなくても良いのだという点が安心感につながり、以降リラックスして面接に臨むことができました。
- 2日目訪問だったので、素直にまだ迷っていることを伝えたら、私と同じ併願先で迷った職員の方と原課面接というより、お悩み相談会をしていただいたこと。最終的に文部科学省に決めたきっかけの1つになったので、とても印象的です。
- 最初のブース面接が、地方の教委へ出向中の職員の方とのオンライン会議で、ブースにタブレットとイヤホンが用意されている状態だったので、驚いた。
- 「能力はまだまだですが、熱意はあります！」と元気よく言ったら、苦笑いされながら「うん、そんな感じがするよ(笑)」と言われたこと。
- 待合室に漫画「宇宙兄弟」が置いてあったのですが、3巻からしかなかった…笑！
- 帰りの時間がかなりバラバラになるが、帰る時間と合否はあんまり関係ないので気にしないこと。
- 非常に長いので、何もしていないのに疲れる。

③面接で意識したこと・工夫したこと

- リラックスして楽しむこと。
- きちんと会話のキャッチボールをすることを意識しました。
- 端的かつ具体的に話すことです。口で言うのは簡単ですが、いざやってみようと思うとなかなか難しく、つい話が長くなってしまうので、気をつけていました。
- 必要以上に自分を良く見せようとせず、官庁訪問を通して学びたい、成長したいという謙虚な姿勢を忘れないこと。
- 笑顔！

官庁訪問体験談

③面接で意識したこと・工夫したこと（続き）

- 逆質問は絶対にするようにした。来訪者メモを書いた時や1日目の面接のその後から意見を更新することも時には必要。
- 分からない専門用語が出たら恥ずかしがらずに聞いた。場合によっては知識不足を開示することになり得るが、職員さんの返答のなかから自分と卑近なものを気合いで探して、そこをきっかけに話を深めていけると巻き返せる。論理的に考えて「国としてこうあるべき」と感情的に「自分はこうあってほしい」の2つを明確に説明することで、隙なく対応することができる。
- 面接官の方と意見を戦わせるのではなく、相手の意見を取り入れて自分の論を改善することを意識しました。面接時間はすぐに終わってしまうので、相手と論戦になると自分の話したいことを十分に出せないまま終わってしまいます。むしろ自分にはない視点からの考えを知ることができる良い機会だと考えるべきです。

④評価されたと思うポイント

- 説明会への参加回数は少なかったが、面接で話した内容をすぐに吸収して次に生かしている、とのフィードバックをいただいたので、面接での瞬発力やオープンマインドな感じを評価していただけたのではないかと思います。
- どのような方とも腹を割って話することができるコミュニケーション力が評価されたように感じます。官庁訪問を突破することができればともに働く同僚になるので、「ともに働ける素質がある」と思っていただくことを一番の目標にしていました。その軸を大切に挑めたことがよかった点だと感じています。
- 様々なことに対して意見を述べる場面があったが、いつでも自分の志望動機や目指したい社会との一貫性を失わないように気を付けたこと。
- 粘り強さ。
- 学ぶことを楽しむ姿勢。
- 率直に誠意を持って受け応えたところ。
- 課題や物事に対して、多角的な視点で自分の考えを持っていた部分は評価して頂けたのかと思います。
- 笑顔！

⑤面接のアドバイス

- 知識量よりも、ここで働きたいという熱意が相手に伝わるかどうか最終的には大切だと思います。あとは何より、最後まであきらめないことです！私はなかなか思うような評価がもらえず苦しい官庁訪問となったのですが、第3クールで覚悟を決めて全力で頑張れたことが良い結果に繋がったと思っているので、これから官庁訪問をされる方にお伝えしたいです。
- ありのままの自分を見てもらえるようリラックスして望むと良いと思います。
- 長丁場で疲れるが、疲れや焦りを表情に出さず、できるだけ笑顔を絶やさないようにした方が好印象だと思う。
- 志望動機や政策提言を話した後、職員の方の反応・お話を聞いた上でまた自分の考えをアップデートして返し、再び職員のお考えを聞く、それを繰り返すという対話の姿勢が大切。
- 説明会やそれまでの面接で聞いた話を元にして話すことがよくあるが、誰が話していたか名前もしくは所属をしっかりと覚えておくとうスムーズな会話になると思います。
- 政策を勉強しそれら無理にを頭に入れる必要はないと思うが、その場その場でよい質問をするためにも日頃から幅広くニュースなどで情報収集をすることは非常に有効だと感じました。
- 人は最初の数秒で印象が決まり、それはなかなか変わらない。いかに最初の挨拶をしっかりするか、見落としがちだが意外と大事な点だと思います。
- 面接中には細かいフィードバックや職員の方の体験談を聞くことができる機会がたくさんあります。なるべくその場でメモを取るようにすると、後で自分の思考を整理するときに役立ちます。
- 官庁訪問は長丁場で大変かと思いますが、よく寝て、少しでも楽しみながら臨んで欲しいです^^



官庁訪問体験談

3. グループディスカッションについて

官庁訪問当日には、面接の他にグループディスカッションが行われました。形式やその時の心境について振り返ります。

①形式・雰囲気など

(事務系)

- ・第3クールで経験しました。約15人の志望者がくじで4人ずつのグループに分かれ、配布された資料の説明（私の場合は外国人材の受け入れと共生社会がテーマ）を受けた後、1時間程度のグループディスカッション→2分程度（多分）で各グループ発表の流れでした。20人以上の職員さんがグループディスカッションの様子を見ておられたため、やっているときはかなり緊張感があったと記憶しています。志望者の中では、良いパフォーマンスを見せなくてはというプレッシャーが強い状況ではありましたが、みんなで助け合って頑張ろうという雰囲気があったため、緊張しながらも最後までベストを尽くせたと思います。
- ・官庁訪問前の政策ワークショップなどと同じ形式だったが、周りのレベルは上がっていると感じた。
- ・シチュエーションとしては緊張感のあるものでしたが、和やかな雰囲気でした。形式はワークショップと同様の講義→ワーク→発表でした。
- ・形式は採用イベントのグループディスカッションと似た感じで、職員さんが各テーブルを回る形でした。

(技術系)

- ・3、4人ずつのグループに分けて1時間半から2時間ほど、行なった。既合格者では全員が質問する機会があり、通常期ではグループを代表して1人が質問することができた。文科省は院卒も多いため研究発表経験が多いため話し合いはスムーズだった。ただし、1人でも我が強い人がいると大変。
- ・かなり性格を見た上でチームが割り振られている印象。相性の捉え方によってはグループディスカッション自体はしんどいものになるが、そういったことも考慮した上で面接官は評価してくれるので、とにかく最善を尽くすのが大事。
- ・4人1組のグループに分けられた。同じ課題が各グループに与えられ、ホワイトボードを用いて議論した。議論の後、全体に対してグループ発表を行った。飲み物やお菓子を食べながらの進行で、かなり和やかな雰囲気だった。
- ・全体の6人が3人ずつに分けられ、同じ議題について話し合う形だった。和気あいあいとした雰囲気の中で行えたのが年下の自分にとってはよかったと思います。
- ・2グループに分かれたが、お互いに和やかな雰囲気でした。発表準備は1時間程度（だったはず）と短かったので、巻きで動く必要がありました。最後に互いに発表をし、一人1問ずつ、質疑を行いました。（既合格者）

②意識していたこと

- ・人の意見をまとめたり、論点を整理したりなど、ディスカッションの全体の流れを意識するようにした。
- ・本番で意識していたのは、議論をリードしつつも自分の意見を押し通さないことです。発言が少ない人に意見を積極的に求めたり、相手の発言のどこに共感したかを伝えたりしながら、グループ全員で一定の結論を出せれば良いなと思って臨みました。特別な対策はしていませんでしたが、政策ワークショップで一緒のグループだった方が官庁訪問のグルディスでも同じグループになるという偶然を経験したので、政策ワークショップに参加していて本当に良かったです！（笑）
- ・個別に配慮しながらも議論全体をリードしていくんだという気概。そしてわかりやすく熱意を込めて説明しようという気持ち。
- ・たとえファシリテーターでなくとも、全体の議論を整理して俯瞰した上で、結論出しへのロードマップをなんとなく描く。
- ・グループとして良いアウトプットを出すことを考えていました。
- ・人数が少ないため、司会などの役割を明確に決めることはしなかった。ただ、それまでの待ち時間での雑談で、誰が一番意見を言いそうかなど心の中でリーダーは決まっていたように思う。
- ・あまり話すことができていないように感じたので、書記を名乗り出ました。
- ・互いの意見をしっかりかみ砕いて理解し、自分の考えと絡めて意見を出せることを目標にしていました。

官庁訪問体験談

4. 控室での過ごし方

- ・ 第1クールでは控室にいられる時間が短かったので、簡易的に摂取できるパウチのゼリーは重宝しました。
- ・ 基本寝ていました。
- ・ 午前中は話にくいですが、だんだん打ち解けてきたお昼以降は近隣の受験者と話す、または面接の内容や反省をメモしたりしてました。中には卒論など作業している人もいましたが、大体似たり寄ったりの過ごし方だったと思います。(昼と夜休憩の2回を除き、食べ物を買に行くことはできないので、気になる人は軽食・補食を持っておくと良いと思います。)
- ・ 同じ班の人と話したり、面接で聞かれたこと、反省点、新たな疑問点などをノートに書いたりして過ごしました。
- ・ 同じテーブルの人と情報共有。お互いの傷をなめあう。
- ・ 本、飲み物、おやつ、ハンカチ、ティッシュ、来訪者メモのコピー。
- ・ 本、作業用PCは必須。白書が何部か置いてあり、暇つぶしも兼ねて読んでいた。また、宇宙兄弟の単行本も置いてあり、官庁訪問中に読破することを目指したが3/4あたりで官庁訪問が終了してしまったことが心残り。
- ・ 論文持っていてってセミナーの準備をした。
- ・ 何も持って行っていなかったの、暇を持て余しました。
- ・ 僕は大量荷物で行ったのでむしろもう少し身軽で良かったと思いました。(後のクールになればなるほど身軽になりました。)

5. 成功・失敗談

①成功談

- ・ 落ち込むことはあっても折れなかったこと。すべての面接がうまくいったわけではありませんでしたが、その時できるパフォーマンスを積み重ねて、結果的にチャンスを拾いきることができたと考えています。
- ・ とても恐縮ではありましたが、「今はここが課題だと思う。だから今後はここに力を入れる必要があると思う」という意見をぶつけたことだと思います。
- ・ 友人が出来たこと。
- ・ 控室で面接内容の記録と感想、今後の方針をノートに書くようにしていた。このノートのおかげでうまく自己分析ができて、良い形で次のクールに進むことができた。
- ・ 人事課面接では面白いエピソードを話して面接官を笑わせると決めていました！実際に幾つかのエピソードで笑ってもらえることができて、自分の魅力を伝えられたことが勝因だと思います笑
- ・ 官庁訪問前1週間ほどはとにかくニュースや新聞にアンテナを張り、それが功を奏して、想定外の変化球質問に上手く答えられた時がありました。
- ・ 途中から道に迷わなくなりました。知らない部屋からでも、一人で控室に戻ってこれました。
- ・ 説明会に複数回参加していたため何人かの職員の方に顔を覚えていただけており、緊張がほぐれた。
- ・ 最後の人事課の偉い人との面接で、始まるや否や研究力を上げるためにどんな政策が考えられるかと聞かれ、それに答えるとすぐさま自分の提案の問題点を指摘されたのだが、例えばこんな政策を参考に...と挙げた政策がたまたまその偉い人が作ったものだったので一気に面接が楽になりました。
- ・ 最初は緊張していましたが、次第に楽しく職員の方と話せるようになりました。少しずつですが自然体を出せるようになったことで、自分の考えを伝えられたのではないかと思います。



官庁訪問体験談

②失敗談

- ・ 前日緊張で寝れず、寝不足の状態です。官庁訪問をしてしまった。
- ・ 夜ご飯の買い出しを逃して、食料が尽きたこと。
- ・ 控室が楽しすぎてトイレにいかず膀胱炎になった。
- ・ 第1クール1日目の前日にカプセルホテルに泊まったことです。この日だけ都合でカプセルホテルだったのですが、ちゃんと調べておらず、ロッカーと宿泊のフロアが違い、荷物の整理がいちいち面倒だったり、周囲がうるさくあまり寝られなかったりで、第1クール初日のパフォーマンスが最悪でした。普段はカプセルホテルでも寝られるのですが、自分が官庁訪問の前日にどのような状態になるのか見通しが甘かったです。
- ・ 汗かきなので、もう少し暑さ対策をしておけばよかった。スーツはただでさえ暑苦しいので、少しでも通気性の良いものを選んでほしい。
- ・ 1日ごとに精魂尽き果てるほど疲弊した点です。官庁訪問1日目で疲労困憊になった結果、体調を崩してしまい、翌日の省を欠席することになってしまいました。普段からもっと体力づくりを頑張っておけばと後悔しました。
- ・ 回答に詰まった際に、焦りや不安が表情に出てしまったこと。素早く切り返すか、考える時間をもらうなど、もう少し上手く立ち回れたらもう少し良い印象を与えられたと思います。
- ・ 逆質問を考えすぎたこと。面接の際、逆質問の時間があることがほとんどです。私は良い質問をしようと意気込んで変に凝った質問を何度かしたのですが、実際は素直な疑問をぶつけた方が感触が良いこともありました。無理に背伸びした質問をするよりは、純粋な興味関心に基づいて質問すれば良かったなと今では思います。
- ・ リクルートバッグが小さすぎて、資料等を十分に持って行けなかったこと。大きめのリュックにしておけばよかった。面接官の方の名前をメモし忘れ、次の面接で「さっきは誰とどんな話をしたの?」と聞かれた時に動揺してしどろもどろになってしまった。
- ・ クールビズが推奨されていたためジャケットは地方に置いてきたが、官庁直後の内々定式ではジャケットを着ていない人は事務系を含めてもごく少数であり、若干肩身が狭かった。
- ・ ヒールの靴擦れが大変だった。
- ・ 面接の際、自分の所属は言うてはいけないルールなのですが、把握しておらず、数回は思いっきり名乗ってしまったので、気をつけてください。
- ・ 来訪者メモを何度か書き換えたため、最新版でどの内容を書いていたか分からなくなってしまいました。直前に内容を大幅に書き換えることは避けたほうが良いと思います。

6. 官庁訪問に向けてのアドバイス

- ・ 専門的で難しい政策議論等もありますが、普段話すことのできない方々とお話しできる貴重な機会なので、全力で楽しんでください！
- ・ 業務説明会や政策ワークショップにできるだけたくさん参加するべき。
- ・ 極度の緊張の中、何度も面接を受けたり長時間待機したりするのは正直かなりキツイです。諦めなくなる瞬間も出てくるかもしれませんが、そんな時は初心を思い出して踏ん張ってください！
- ・ 自分の持っている良いところを見失わずに、大切に抱えながら挑戦してみてください。苦しい展開になればなるほど、特にです！
- ・ よく考えて、よく相談して、また考えて、また相談すること、だと思います。自分ひとりで考えすぎて泥沼に落ちても、相談するばかりで自分で考えないのも、あんまりよくありません。これほどインプット・アウトプットの両方を試されることは、多くの人は経験がないと思います。とてつもなく追い込まれている気持ちになるかもしれませんが、自分の持てる全てをぶつけてみてください。そうすることでしか得ることができなかったモノがきっとあります。
- ・ 就活は相性が見極めが重要です。とにかく自分と向き合って、自身の正直な思いや考え、理想、特性、才能を言語化し、自分という人間に対する解像度を高めておきましょう。その上で志望する省庁のことをよく知ろうとし、自分とマッチする組織かどうかを検討してください。
- ・ 「官庁訪問どうしよう」と、不安な気持ちもわかりますが、ここまでこれただけでもすごいことだと自分をほめてあげてください。

官庁訪問体験談

6. 官庁訪問に向けてのアドバイス（続き）

- ・面接カードに書いた内容はきちんと覚えて面接に臨みましょう。
- ・体力がかなり削られる期間になるので、睡眠をしっかりとって、できる限りリフレッシュすることが大事だと思います。
- ・官庁訪問は自分と相手とのマッチングを図る場であると実感しました。自分のことについて理解してもらうことも大切ですが、文科省の仕事はどんなことをするのか理解を深めるフェーズも大事だと思います。それを材料にすることで、自分がどう貢献できるのか、どこに魅力を感じているのか、ということにさらに説得力を持たせることができた気がします！
- ・合格発表から官庁訪問までの期間が非常に短いです。合否がわかる前から対策をしておくことが重要です。

7. 休日の過ごし方

<リラックス派>

- ・ハリーポッターの舞台を観劇しに行きました。
- ・ホテルでNetflixを見ていたら1日が終わっていました。
- ・一回忘れる！ディズニーランドにいきました。
- ・いつも通りの休日でした。ポケモンやってみました。
- ・趣味の大会に出ました。身が入りませんでした。
- ・友達と会って、官庁訪問中に追ったダメージを回復させる。

<勉強・対策派>

- ・涼しい室内で控室で書いた面接のメモ・ノートを何度も読み返した。疲れを取るために出かける予定は一切入れず、運動は散歩程度にとどめて22時台に就寝。
- ・丁度官庁訪問中の休日に県庁の試験が被っていたので、そちらを受けるついでに帰省していました。その他の日は友人と会ったり上野公園を散歩したりしていました。
- ・記憶がありません笑 最低限、面接の振り返りや勉強はしたと思いますが、それ以外は気が気でなく、ただただ時間を潰していた時間が長かった気がします。
- ・ちょうど骨太の方針が発表されたので、一通り読んでいろいろ考えていました。
- ・休日でも生活リズムは保つことが重要。
- ・大学に戻って研究室に行っていました。体力面でも気持ちの面でも大変だったので、正直なところ、二度目はしたくないです。
- ・訪問先が文科省のみだったので、空いた日は普通に大学に行っていました。第2クールと第3クールの間は、政策提言のブラッシュアップや面接で初めて知った事柄について知識を深めることをしていました。
- ・既合格者向けだったため、官庁訪問中に休日はありませんでしたが、2日目はどこも訪問していなかったため、研究室に行ったり、民間企業の面接を受けたりしていました。
- ・学内の先生に報告や相談をしに行っていました。



コラム

官庁訪問中の宿泊先の選び方

滞在場所とアドバイス

① **代々木公園**（オリンピックセンター）金額：1泊5千円程度

- 就活応援プランを使用すれば安く泊まれます。（2025年度は2,900円～）
- 滞在期間中は食事が偏りがちになるので、野菜をきちんと摂ることを意識した。
- ずっと部屋にこもっているとストレスが溜まるので、散歩に出掛けて気分転換をしていた。

② **霞が関周辺**（ビジネスホテル）金額：1泊5千円程度

- 早めから確保しておくこと！

③ **上野**（カプセルホテル）金額：1泊5千円程度

④ **南阿佐ヶ谷**（ホテル）金額：1泊5千円～1万5千円程度

- 通勤ラッシュでも電車の始発駅だと座れるので、隣駅の荻窪から電車に乗っていました。

⑤ **六本木、麻布**（ホテル）金額：1泊5千円～1万5千円程度

- 早めに予約しておけば少し安く取れたので、キャンセル料が直前までかからないホテルを取っておけばよかったと思います。
- ホテルの周りを事前にリサーチし、買い物や駅までの経路を考慮しておくこと。

⑥ **赤坂見附**（ホテル）金額：1泊1万円程度

- 安くて良い所は埋まってしまうので遅くとも1カ月前には予約するべき。

⑦ **秋葉原**（ホテル）金額：1泊1万円程度

- （今年もあるかはわかりませんが）官庁訪問者用の宿泊所が案内されると思うので、そちらに泊まることを強くお勧めします。私はそうしなかったので、かなり金銭的な負担が大きかったです。

⑧ **麹町**（ホテル）金額：1泊1万円～2万円程度

⑨ **国会議事堂前**（ホテル）金額：1泊1万円～2万円程度

01 内定者統計

|

02 総合職試験情報

|

03 官庁訪問体験記

|

04

就職活動体験記

|

05 文部科学省に決めた理由

|

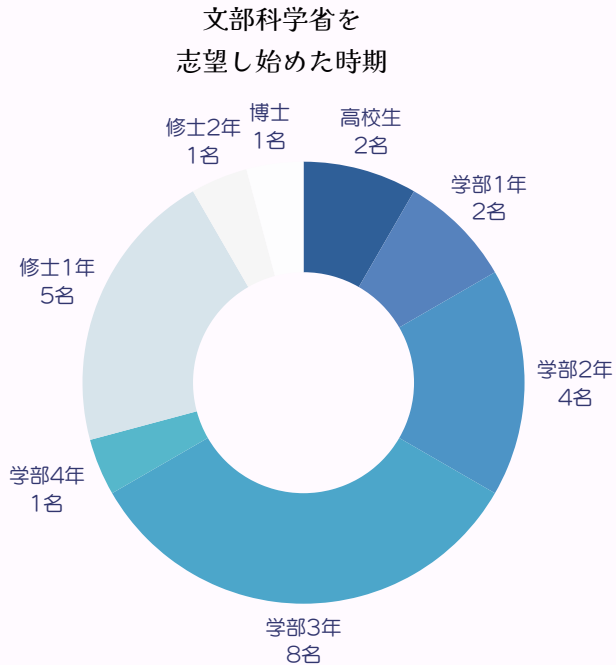
06 インタビュー

|

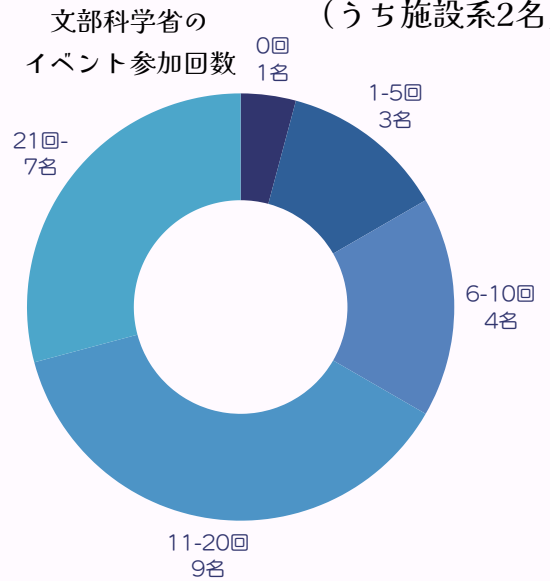
07 内定者プロフィール

事務系 就活体験記

文部科学省への就活



事務系内定者：24名
(うち施設系2名)

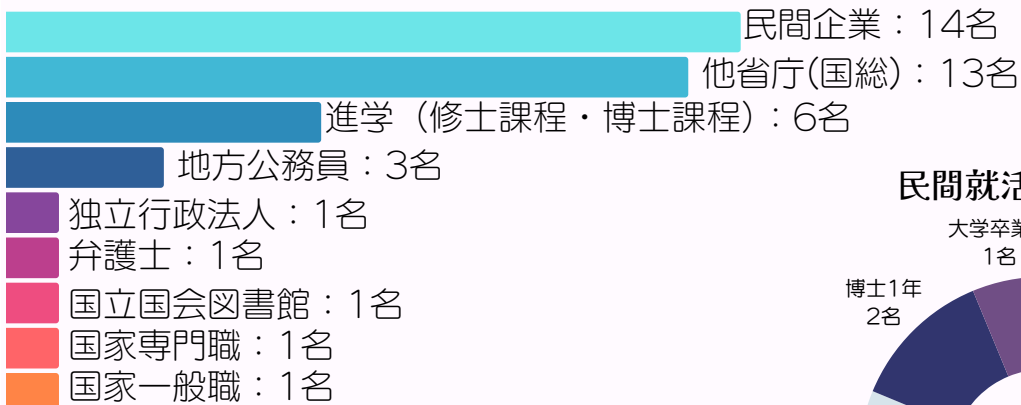


参加イベント内訳

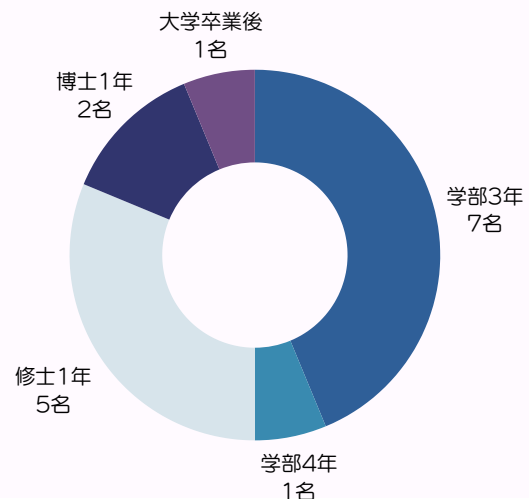
業務説明会	23名
少人数懇談会	20名
職員訪問	21名
政策ワークショップ	18名
1 on 1 meeting	14名
霞が関OPENゼミ	4名
インターン	3名
2days Spring Program	9名
内定者イベント	12名

※複数回答のため、合計人数は回答者数と一致しません

検討した進路 (複数選択可)



民間就活開始時期



民間就活との両立

- ・民間就活は3年生終わりの春休みに本格的に取り組むことで、教養区分試験と官庁訪問の間に、ちょうど時期をずらして注力することができた。
- ・エントリーシートはだいたい秋ごろにたくさん提出することになるが、各会社の理念・性格に合わせてエントリーシートをいくつも準備するのはそれなりに大変なので、早め早め書き始めた。グループディスカッションや面接を多く経験することは官庁訪問対策にもなった。
- ・教養区分の勉強と被るからと夏インターンを疎かにしていましたが、その時期に早期内定を貰うのが最大のチャンスでした。その後は忙しくなる一方です。

 民間就活の早期着手と場数は、官庁訪問の糧となり心の余裕を生む。

大学/研究/サークル/アルバイトなどとの両立

- ・事前に何がどれくらいの時期に忙しくなりそうかを把握しておいて、その時期には他のことをセーブするように意識した。
- ・大学のゼミ発表の時期を公務員試験とかぶらないように調整してもらったり、サークルの役職を引き継いだりして、キャパオーバーしないよう気を付けていた。
- ・自分のキャパとは相談した上ではありますが、変に諦めるくらいならやりたいことを全てやることをお勧めします。
- ・3年生のうちになるべく大学の単位をとっておく！

 『先手の準備』と『環境の整理』が、妥協なき両立を可能にする。

就活の情報収集

- ・実際にどのような形で面接が行われるのか、どのような部分が評価されるのかを知ることが難しかったと感じています。公務員試験の予備校を使うのも1つの手だと思いますし、さまざまある書籍を参考にするのも有益だと思います。一つの情報を信じすぎないように、多くの情報源にアクセスしてみることをオススメします！
- ・大学の研究などでも同じだと思いますが、文科省について興味を持ち始めた頃の、どうやって情報収集をするのか分からない時が最も苦労しました。私はとにかく説明会に参加し、職員の方々とのコミュニケーションの中で解決の糸口を見つけるようにしました。
- ・就活を助け合うチームを作って毎週オンラインで集まってケース問題を解いたり面接練習をしたりしていました。
- ・官公庁就活は、既に内々定をお持ちの大学院の先輩方に大いに助けていただきました。

 **多様な情報源への接触と、対面・仲間を通じた『生の情報』の共有が突破口になる。**

アドバイス/メッセージ

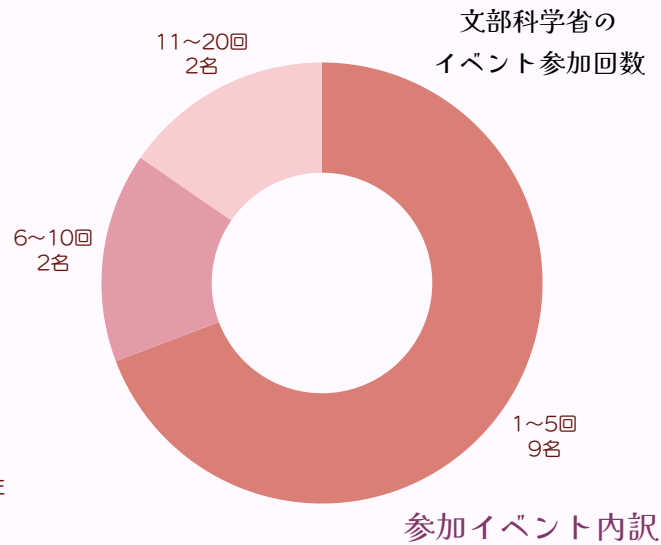
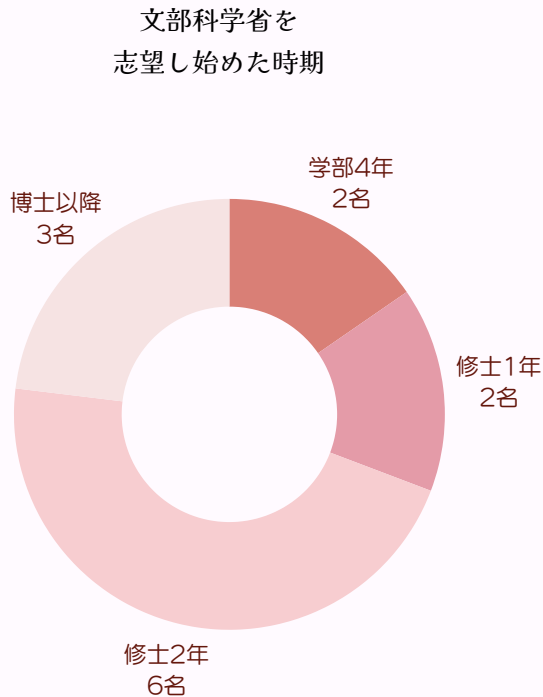
- ・自分が興味を持てる職種であれば自ずと就活が楽しくなると思うので、自分が楽しめているかどうかは1つの評価軸だと思います。
- ・将来のことについて考える時は、じっくり時間をかけて良いと思います。そこで出した自分なりの答えは、緊張したときの励みしや、面接時の熱量に繋がっていた気がします。
- ・就活は客観的な視点がかなり重要。家族や友人に相談することで、自分ではわからなかった自分の長所・短所に気づけることもあるので、迷ったり不安になったりした時は1人で抱え込まず、周囲の人を頼るのも1つの手だと思う。
- ・就活が早期化していますが、公務員就活はその度合いがましなこともあり、民間就活と公務員就活に順番に取り組むような形で併願は有効です。ですがその分、学部3年秋～学部4年春の結構な長期戦になり、学業や遊びの時間をかなり削ることになるので、自分の中の優先順位や体力を鑑みて取捨選択することも大切だと思います。

 **『楽しむ心』と『自己対話』を軸に、周囲を頼りながら長期戦を走り抜く。**

技術系 就活体験記

技術系内定者：13名

文部科学省への就活

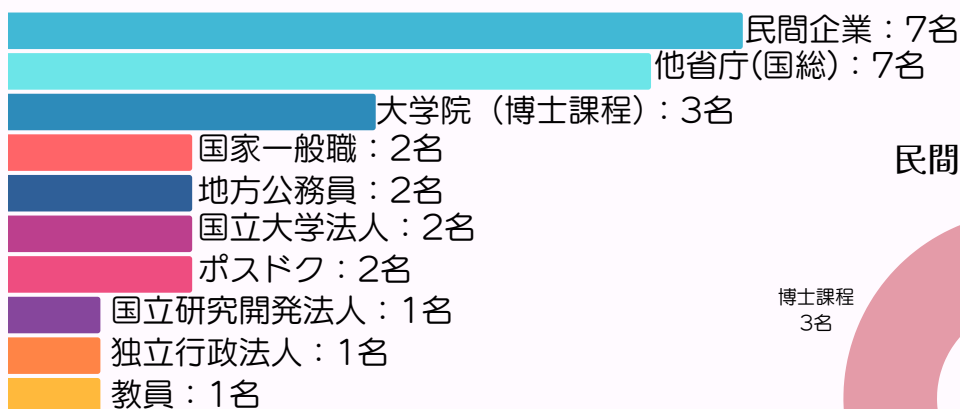


参加イベント内訳

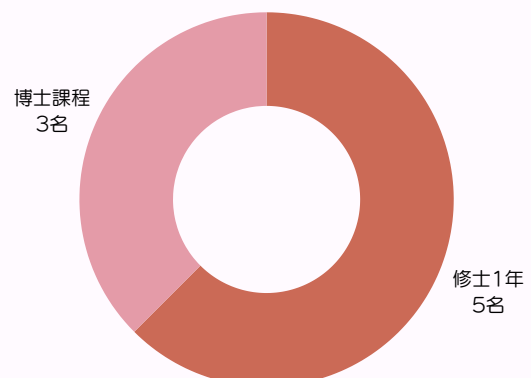
業務説明会	12名
少人数懇談会	2名
職員訪問	11名
政策ワークショップ	2名
霞が関OPENゼミ	3名
インターン	2名
内定者イベント	5名
直前相談会	1名

※複数回答のため、合計人数は回答者数と一致しません

検討した進路 (複数選択可)



民間就活開始時期



民間就活との両立

- ・公務員が本命だとしても、面接の練習としてこれ以上ない機会なので時間に余裕があれば積極的にするべきだと思います。時期はほぼかぶらないので両立は可能です。
- ・民間に応募するなら早期もしっかり調べた方が良いです。3月から始めるのは明らかに遅いです。
- ・民間企業の面接をこなしていくとかなり面接練習になると思います。
- ・公務員の内々定が出るのが遅いので、民間の内々定が先に出るが、承諾を待ってもらうことになる。そのため、民間企業の人事の方とコミュニケーションを密に取る必要がある。

 **早期からの民間就活が公務員就活の余裕を生む。**

大学/研究/サークル/アルバイトなどとの両立

- ・説明会への参加など時間的制約のあるものを除いて、大学や研究、アルバイトを優先していました。大学で学んだことや研究、アルバイトでの経験に基づく話を官庁訪問のときにできたので、両立していてよかったと思いました。
- ・研究や講義はうまく周囲の人の理解を得ておくことが大切だと感じました。
- ・研究と就活の両立だったが同時並行は無理だったので、「今週は研究に集中する」「来週は就活に集中する」というように、メリハリをつけてやるのが良いと思う。
- ・研究の待機時間などを有効利用して試験勉強をしていました。
- ・官庁訪問の期間は事前に教授や先生に報告してお休みすることを伝えて、その前後で頑張りました。

 **周囲の理解を得て学業とメリハリをつけ、その経験を面接の武器に変える。**

技術系 就活体験記

技術系内定者：13名

就活の情報収集

- ・ 周囲に総合職志望者が少なく、文部科学省についてはさらにいなかったため、情報収集に苦労しました。文部科学省主催の説明会などに参加し、自分から情報を得られるようにしていました。
- ・ 文科省に限らず既合格者試験に関する情報が少ないので、この内定者の声でしっかりと伝わりと嬉しいです。
- ・ 兎にも角にも職員訪問等で職員の方から直接情報を収集するのが効率的だと思いました。聞きづらいこと、調べづらいことも聞けます。
- ・ なるべく色々な人の話を聞くように心がけた。
- ・ 同じような会社や公務員への就活をしている人と繋がらないと得られない就活情報がたくさんあった。インターンシップの繋がりや企業説明会での繋がりを大切にすべきと感じた。

 **情報の少なさは自ら動いて補い、説明会や仲間の繋がりから『生の声』を活用する。**

アドバイス/メッセージ

- ・ 私は転職という形で入省する身なので、極度に不安になることなく、失敗してもその時やり直せばいいじゃないかという楽観的な精神が多少はあっていいんじゃないかと思っています。
- ・ 様々なことに挑戦しておいた方がいいと思います。就活のためとは一切考えておらず取り組んでいた出来事についても偶然話す機会があり、他に話すことが思いつかなかったため救われました。
- ・ 期間が長いので体力的にも精神的にもいっぱいになる瞬間があるかもしれませんが、そんな時こそ睡眠と食事を大切にしてください。
- ・ 博士卒向けのアドバイスとはなりますが、やりたいことの軸を決めて志望先を決めると余計なところを受けなくて済むし、ES等も書きやすいので楽です。
- ・ 自分は就活で民間・公務員・研究者の産官学どこに行こうか迷いましたが、今後のキャリアについて考え尽くして決断したので、今後どうだろうと後悔は抱かないと思います。就活考えているところの情報を集められるだけ集めてしっかり考え尽くすことをおすすめします！

 **徹底的に考え抜いた軸を武器に、心身を労わりながら楽観的に挑戦し尽くす。**